

弘前市農業委員の推薦及び応募状況 最終公表

※受付順に記載

R3.10.29時点

No.	推薦・応募する区域	推薦・応募						推薦をした者					推薦・応募理由及び委員としての抱負	農地利用最適化推進委員への推薦・応募		
			氏名	職業	年齢	性別	経歴	農業経営の状況(又は従事する事業等、その者と農業との関連)※農業者でない場合は、市の農業の現状について、自身の考えを記載	認定農業者	推薦区分	氏名	年齢			性別	職業
1	裾野	応募	高橋 貴志	農業	44	男	2010年より農業を始める 2019年から農業委員として活動	田:78a 農事組合法人鬼檜管農組合に委託 りんご:310a	○	個人推薦					今期の農業委員の活動をさせていた でしたが、勉強不足でスムーズな 活動ができませんでした。来期も委員 として活動できるなら、今期の学んだこ とを生かして地域に貢献していきたい。	
									団体推薦	名称						
										代表者・管理者 氏名						
										目的						
										構成員数						
										構成員たる資格						
										法人・団体の性 格を明らかにす る事項						
2	千年	応募	大湯 茂八郎	無職	69	男	昭和50年弘前大学農学部卒業 昭和50年日本専売公社入社。その後JT 青森県たばこ耕作組合退社(平成29年3月) ・原料葉たばこの安定的調達、葉たばこ生産の生 産性向上と規模拡大化、品質の向上安定化など	アフガニスタンで亡くなった医師の中 村氏が、医療も大切だが多くの人々が 生きていくためには農業が最も大切で 食料が基本であると訴え、治水工事等 を推進してきた。私も共感するととも に、農業従事者が安心して農業経営が 継続できる環境を整備し、人材を育成 することの重要性を痛感している。 弘前市においても農業従事者の高齢 化が進展し、後継者の育成と農地の有 効活用が重要課題であると考え。		個人推薦					令和元年から現在まで、農業委員の 新人としてやってきましたが、農業の分 野も産業として継続していくためには きっちりとした枠組のもとで対応する諸 課題を解決することの重要性を痛感し ています。行政や関係機関との連携の もと、提言要請など実施する必要性を 感じています。 これからも、農業委員会を中心とした 活動を通じて地域住民とも話し合い、 産業として育成し基盤を強化し継続・ 発展させていくことが重要であると考 え、応募しました。	
										団体推薦	名称					
										代表者・管理者 氏名						
										目的						
										構成員数						
										構成員たる資格						
										法人・団体の性 格を明らかにす る事項						

弘前市農業委員の推薦及び応募状況 最終公表

※受付順に記載

R3.10.29時点

No.	推薦・応募する区域	推薦・応募						推薦をした者					推薦・応募理由及び委員としての抱負	農地利用最適化推進委員への推薦・応募		
			氏名	職業	年齢	性別	経歴	農業経営の状況(又は従事する事業等、その者と農業との関連)※農業者でない場合は、市の農業の現状について、自身の考えを記載	認定農業者	推薦区分	氏名	年齢			性別	職業
3	独狐前坂	応募	町田 高司	農業	48	男	昭和47年12月 独狐の農家に生まれる 平成4年3月 弘前高等学校卒業 平成16年12月 認定農業者に認定 平成28年4月 農地利用最適化推進委員 平成31年4月 農業委員	田:0.2ha 樹園地:2.3ha 一部特裁 両親とともに農業(主にりんご作り) りんごは宅配と農協出荷	○	個人推薦					耕作放棄地を減らしたいとの思いで、この6年間農地利用最適化推進委員と農業委員をやらせてもらったが、未だ満足できない状況が続いています。この6年の反省も踏まえて、もう少し頑張りたいと思っています。	
										団体推薦	名称					
											代表者・管理者氏名					
											目的					
											構成員数					
構成員たる資格																
法人・団体の性格を明らかにする事項																
4	東目屋	応募	三上 浩太	農業	45	男	平成5年4月 弘前高等学校入学 平成9年4月 駒沢大学法学部入学 平成13年4月 弘前中央青果入社 平成22年 農家となり現在に至る	りんご1.8ha経営、両親と3人 全て無袋栽培、優良着色系統や黄色品種を増やし、省力化に努めています。	○	個人推薦				他地域の委員と交流を図りながら、自分の地域の農業の有効利用に努めたい。 地元のコミュニティに積極的に参加し、意向調査をもとに、遊休農地の発生防止や利用調整などに尽力したい。		
										団体推薦	名称					
											代表者・管理者氏名					
											目的					
											構成員数					
構成員たる資格																
法人・団体の性格を明らかにする事項																

弘前市農業委員の推薦及び応募状況 最終公表

※受付順に記載

R3.10.29時点

No.	推薦・応募する区域	推薦・応募					経歴	農業経営の状況(又は従事する事業等、その者と農業との関連)※農業者でない場合は、市の農業の現状について、自身の考えを記載	認定農業者	推薦をした者				推薦・応募理由及び委員としての抱負	農地利用最適化推進委員への推薦・応募		
			氏名	職業	年齢	性別				推薦区分	氏名	年齢	性別			職業	
5	石川	推薦	成田 毅	農業	68	男	昭和44年4月 柏木農業高等学校入学(47年卒業)	田:0.8ha 減農米 樹園地:3.3ha 無袋8割、有袋2割 息子に経営を任せる専従者 特区での市民農園で消費者との交流 県の担い手事業へ剪定指導 青森県りんご協会特別講師で剪定指導 青森県営農大学校へ剪定指導10年	○	個人推薦	棟方 健	70	男	農業	農地利用最適化推進委員を2期勤め実績も有り最適人であると思います。		
											棟方 進	67	男	農業			
											笹田 高明	64	男	農業			
										団体推薦	名称						
											代表者・管理者氏名						
											目的						
											構成員数						
構成員たる資格																	
法人・団体の性格を明らかにする事項																	
6	千年	推薦	小林 政貴	農業	49	男	H5.3 青森県農業大学校専攻科卒業 H5.4 ロイヤルインダストリーズ(株)就職 H9.6 りんご農家後継者として就農 H18 認定農業者に認定 H28.4 農業委員に就任 現在に至る	りんご:5ha(ふじ50%)有袋20% ほぼ100%わい化栽培で省力化と高品質のりんご生産にこだわる 薬とらず栽培も導入し、高食味のりんご生産 約30%のりんごを地区の中間と産直販売し、高収益を目指している	○	個人推薦					地域で若い後継者や新規就農者も増えており、その方々に農地を優先的にあつせんし、地域の活性化を目指す。あつせんした後も栽培技術を伝え、自立経営できるようサポートしていきたい。 放任園もまだまだ見られるので、解消できるよう努める。		
											団体推薦	名称	原ヶ平町会				
												代表者・管理者氏名	町会長 藪谷 育男				
										目的		明るい住みよい郷土を建設する					
										構成員数		22人					
										構成員たる資格	地域住民						
										法人・団体の性格を明らかにする事項	弘前市原ヶ平町会規約						

弘前市農業委員の推薦及び応募状況 最終公表

※受付順に記載

R3.10.29時点

No.	推薦・応募する区域	推薦・応募						推薦をした者					推薦・応募理由及び委員としての抱負	農地利用最適化推進委員への推薦・応募				
			氏名	職業	年齢	性別	経歴	農業経営の状況(又は従事する事業等、その者と農業との関連)※農業者でない場合は、市の農業の現状について、自身の考えを記載	認定農業者	推薦区分	氏名	年齢			性別	職業		
7	千年	応募	工藤 栄治	農業	53	男	昭和61年3月 弘前実業高等学校卒業 昭和61年4月 専業農家として従事 平成20年2月 認定農業者となる 平成27年7月 農地活用支援隊に任命される 平成28年4月 農地利用最適化推進委員任命 現在2期目	樹園地3ha、水稲30aを耕作 りんごは7割をわい化栽培にしています。 葉とらず栽培や黄色系りんごの割合を多くして省力化を図っています。 作業時期の分散を考え桃栽培も行っています。	○	個人推薦					農協の総代やりんご委員、町会役員等色々な組織に関わっており地域の方と連携が取りやすいと思います。 6年間の農地利用最適化推進委員として活動してきたので引き続き農地行政に携わりたいと思い応募します。	○		
										団体推薦	名称							
										代表者・管理者氏名								
										目的								
										構成員数								
										構成員たる資格								
										法人・団体の性格を明らかにする事項								
8	相馬	推薦	成田 繁則	農業	66	男	昭和30年6月 紙漉沢の農家に生まれる 昭和45年4月 柏木農業高等学校に入学(48年卒) 昭和55年4月 農業に専従 平成5年7月 相馬村農業委員会 平成8年3月 認定農業者に認定	畑 0.05ha、自家用野菜 樹園地 3.5ha、(りんごワイ化園2.1ha、丸葉園1.4ha)ワイ化栽培が6割を占め省力化 全量JA相馬村に出荷している	○	個人推薦					成田繁則氏は農家の長男として誕生し、幼い頃から農業に慣れ親しんで育った。その後、農家の後継者として農業高校に進学し農業を基礎から学んだ。卒業後、家業の農業に従事しながら、その技術を高めていった。 平成5年8月、旧相馬村農業委員に就任し、市町村合併後も弘前市農業委員として農地集積や耕作放棄地の解消等農業委員会業務に尽力してきた。平成8年3月、認定農業者となり自ら効率的かつ安定的な農業経営のため経営改善を図り、地域の農業構造の確立に努めている。また、地域に貢献するため、消防団活動や獅子舞保存会など文化活動にも積極的に参加している。現在、当JAの組合員としてJAブランド『みつまるくん』等を全量入庫し事業伸長に貢献している。 今回、農業委員の推薦にあたり、これまでの職歴・農業経験等から、地域の信任を得ている成田繁則氏が適任と考え、強く推薦する。			
										団体推薦	名称	相馬村農業協同組合						
										代表者・管理者氏名	代表理事組合長 大場 勉							
										目的	組合員の農業生産についての協業							
										構成員数	864人							
										構成員たる資格	農業者等で定款に定める者							
										法人・団体の性格を明らかにする事項	定款							

弘前市農業委員の推薦及び応募状況 最終公表

※受付順に記載

R3.10.29時点

No.	推薦・応募する区域	推薦・応募						推薦をした者					推薦・応募理由及び委員としての抱負	農地利用最適化推進委員への推薦・応募		
			氏名	職業	年齢	性別	経歴	農業経営の状況(又は従事する事業等、その者と農業との関連)※農業者でない場合は、市の農業の現状について、自身の考えを記載	認定農業者	推薦区分	氏名	年齢			性別	職業
9	相馬	推薦	嶋口 千速	農業	53	男	昭和43年1月 相馬の農家に生まれる 昭和58年4月 弘前実業高等学校に入学(61年卒) 昭和61年4月 農業に専従 平成8年6月 第20期基幹青年入構 平成12年9月 認定農業者に認定(H29.4相馬地域認定農業者連絡協議会会長) 平成22年2月 農業委員 平成23年1月 稲作生産組合ライスロマンクラブ幹事 令和2年4月 相馬村猟友会副会長	樹園地 5.8ha、りんご葉取らず栽培による省力化 田 1.2ha、ライスロマンクラブ両親、妻と農業に専従 りんごはワイ化栽培が7割で反収増を実現 販売は全量農協出荷	○	個人推薦					嶋口千速氏は農家の長男として誕生し、幼い頃から農業に慣れ親しんで育った。その後、農家の後継者として弘前実業高校の農業科に進学し、農業を基礎から学んだ。卒業後、家業の農業に従事しりんご栽培技術を高めるため、平成8年6月には第20期青森県りんご産業基幹青年研修を受講、ワイ化栽培の生産技術を習得した。 平成12年9月、認定農業者の認定を受け、自ら効率的かつ安定的な農業経営のため経営改善を図り、地域の農業構造の確立に努めている。平成22年2月、弘前市農業委員に就任し、農地集積や耕作放棄地の解消等、農業委員会業務に尽力している。現在、当JAの組合員としてJAブランドりんごの『飛馬ふじ』等を生産し入庫している。 今回の推薦にあたり、これまでの職歴・農業経験等から地域の信任を得ている嶋口千速氏が適任と考え、強く推薦する。	○
										団体推薦	名称	相馬村農業協同組合				
										代表者・管理者氏名	代表理事組合長 大場 勉					
										目的	組合員の農業生産についての協業					
										構成員数	864人					
										構成員たる資格	農業者等で定款に定める者					
										法人・団体の性格を明らかにする事項	定款					
10	相馬	推薦	種澤 達也	農業	59	男	昭和37年5月 黒滝の農家に生まれる 昭和53年4月 弘前実業高等学校に入学(56年卒) 平成2年4月 農林業に専従 平成2年5月 認定農業者に認定	樹園地 1.2ha、無袋5割、有袋5割のりんご栽培 畑 2.7ha、山林用苗木生産 妻と次男とともに農業に専従 販売はりんご「みるまるくん」栽培で全量農協出荷	○	個人推薦				種澤達也氏は農家の長男として誕生し、幼い頃から農業に慣れ親しんで育った。その後、農家の後継者として弘前実業高校の農業科に進学し、農業の基礎から学んだ。卒業後、家業の農林業に従事し平成2年5月、認定農業者の認定を受け、自ら効率的かつ安定的な農業経営のため経営改善を図り、地域の農業構造の確立に努めている。現在、当JAの組合員としてJAブランドりんごの『みつまるくん』等を生産・全量入庫している。また、林業に関しては、山林用の苗木を独自で育成・生産しており、当JAの事業伸長と地域農林業の発展に貢献している。 今回の推薦にあたり、これまでの職歴・農業経験等から地域の信任を得ている種澤達也氏が適任と考え、強く推薦する。		
										団体推薦	名称	相馬村農業協同組合				
										代表者・管理者氏名	代表理事組合長 大場 勉					
										目的	組合員の農業生産についての協業					
										構成員数	864人					
										構成員たる資格	農業者等で定款に定める者					
										法人・団体の性格を明らかにする事項	定款					

弘前市農業委員の推薦及び応募状況 最終公表

※受付順に記載

R3.10.29時点

No.	推薦・応募する区域	推薦・応募						推薦をした者					推薦・応募理由及び委員としての抱負	農地利用最適化推進委員への推薦・応募			
			氏名	職業	年齢	性別	経歴	農業経営の状況(又は従事する事業等、その者と農業との関連)※農業者でない場合は、市の農業の現状について、自身の考えを記載	認定農業者	推薦区分	氏名	年齢			性別	職業	
11	清水	応募	石岡 人志	農業	58	男	昭和56年3月 弘前実業高等学校卒業 昭和61年9月 弘前市農協 入組 令和2年9月 つがる弘前農協 退職 令和2年10月 就農	水田 36a 畑地 40a		個人推薦					私(石岡人志)は、農業をしながらJAを57歳で定年いたしました。JA当初から農地の問題では関心があり、これからも農地の流動化等を手伝いをしていきたいと思っている。		
											団体推薦	名称					
												代表者・管理者氏名					
										目的							
										構成員数							
										構成員たる資格							
										法人・団体の性格を明らかにする事項							
12	裾野	応募	須藤 秀人	農業	66	男	農業委員4期 運営委員	樹園地2.4ha 無袋栽培		個人推薦				これまでの経験を活かし農業委員として活動したいと考えている。			
											団体推薦	名称					
												代表者・管理者氏名					
										目的							
										構成員数							
										構成員たる資格							
										法人・団体の性格を明らかにする事項							

弘前市農業委員の推薦及び応募状況 最終公表

※受付順に記載

R3.10.29時点

No.	推薦・応募する区域	推薦・応募					経歴	農業経営の状況(又は従事する事業等、その者と農業との関連)※農業者でない場合は、市の農業の現状について、自身の考えを記載	認定農業者	推薦をした者					推薦・応募理由及び委員としての抱負	農地利用最適化推進委員への推薦・応募	
			氏名	職業	年齢	性別				推薦区分	氏名	年齢	性別	職業			
13	石川 (大沢)	応募	小田桐 明	農業	62	男	昭和53年4月 弘前大学農学部入学(昭和57年3月卒業) 平成2年3月 第16期青森県りんご産業基幹青年修了 平成24年4月～平成28年5月 りんご協会石川地区支会連会長 平成22年4月～令和2年3月 大沢中山間直接支払集落協定代表 令和2年9月 JA津軽みらい石川支店「みらい会」大沢支部長	りんご・米の複合経営を2年前に見直し、収益性の高い果樹栽培(りんご、一部ブドウ)に特化しました。 りんごについては、葉取らず栽培を積極的に増やし、省力化に努めています。また、作業性が良く良品も見込まれるわい化台や中間台方式を計画的に導入しています。有袋栽培も収益性向上のために続けています。	○	個人推薦					経営者・作業者共に高齢化が著しい農業、低下が続く食糧自給率。こういった日本農業を改善する一つの手立てとして意欲のある若手の農業者に農地を円滑に集積させ効率的で生産性の高い経営を維持・推進してける環境を整えてあげることが行政としての重要な役割だと感じています。それを少しでも達成する手助けが出来ればという思いで「推進委員」「農業委員」の経験を活かし、さらに強かに積極的にかかわっていくことを決意致しました。		
											団体推薦	名称					
												代表者・管理者氏名					
										目的							
										構成員数							
										構成員たる資格							
法人・団体の性格を明らかにする事項																	
14	清水	推薦	平井 秀樹	農業	60	男	昭和55年3月 弘前高等学校卒業 昭和60年3月 弘前大学農学部卒業 就農 平成6年11月29日 認定農業者に認定 平成15年4月 家業を法人化 平成16年12月27日 法人が認定農業者に認定	樹園地約15haと観光農園、直売所を経営し、自社生産の農産物はネット販売等を活用し直販に力を入れる。加工品の生産にも力を入れ6次化に取り組んでいる。 環境保全型の農業に取り組み、グリーンツーリズムも展開。弘前里山ツーリズム会員として、農業体験や農家民泊の受け入れを行っている。 樹園地の改植と基盤整備にも積極的に取り組み、経営規模の拡大を行っている。	○	個人推薦					平井氏は、認定農業者連絡協議会の活動を行う中で、市の農政にかかわる活動も多く、協議会と農業委員会との連携を強化したいとの思いから、平成31年度より、協議会の推薦を受けて農業委員として活躍している。 農業委員の任期中、担い手の掘り起こしや遊休農地の解消に向けた地域での活動に尽力してきた。 今後も協議会と農業委員会の連携強化に加えて、地域農業の将来を担う若い農業経営者の掘り起こしと支援に取り組んでいきたいとの目標を持っていることから、農業委員に最適な人物として推薦したい。		
											団体推薦	名称	認定農業者連絡協議会				
												代表者・管理者氏名	会長 前田 勇				
										目的		認定農業者の経営改善に向けた活動支援					
										構成員数		107名					
										構成員たる資格	認定農業者						
法人・団体の性格を明らかにする事項	規約																

弘前市農業委員の推薦及び応募状況 最終公表

※受付順に記載

R3.10.29時点

No.	推薦・応募する区域	推薦・応募								推薦をした者					推薦・応募理由及び委員としての抱負	農地利用最適化推進委員への推薦・応募
			氏名	職業	年齢	性別	経歴	農業経営の状況(又は従事する事業等、その者と農業との関連)※農業者でない場合は、市の農業の現状について、自身の考えを記載	認定農業者	推薦区分	氏名	年齢	性別	職業		
15	新和	推薦	金田 公隆	農家	52	男	昭和44年9月 生まれ 平成4年3月 東京農業大学 卒業 卒業後、農業に従事 平成13年1月 認定農業者に認定 平成19年2月 家族経営協定の締結	田 60a 樹園地 230a(リンゴ) 黄色品種8割・赤色品種2割。全てをわい化、無袋で栽培。 平成13年以降、認定農業者として省力化・効率化に取り組み、農業機械の積極的な導入のほか、赤色品種から黄色品種への移行、わい化栽培への移行、無袋栽培に取り組んできた。 農協、市場にバランス良く出荷することで、農業経営の安定化を図っている。妻とともに農業に従事。	○	個人推薦					これまでの地域的活動で培った知見や人脈を活かし、より効率的で持続可能な農業経営に寄与したい。青色申告会、健康づくりサポーター等、他分野での経験を還元することができると考えている。 具体的には、青色申告や健康診断受診の促進、農業者年金の加入率向上に取り組みたい。青色申告は、収入保険加入に必要であり、また、健診や年金については、高齢化する担い手にとっても、参加者にとっても重要な福利厚生であると考えている。これら農業経営力向上や労働環境整備に取り組み、微力でも若者が参入したいと思える農産づくりに寄与したい。 また、病害虫防止のために、遊休地を含めた園地管理の強化にも取り組みたい。さらに、ウッドチップを導入し、剪定した枝葉の処理をよりエコなものにする等、まずは個人でできることを実践することで、持続可能性の向上にも取り組みたいと考えている。	
											名称	弘前市認定農業者連絡協議会				
											代表者・管理者氏名	会長 前田 勇				
										目的	認定農業者の経営改善に向けた活動支援					
										構成員数	107名					
										構成員たる資格	認定農業者					
										法人・団体の性格を明らかにする事項	規約のとおり					
16	高杉	推薦	堯森 弘義	農業	60	男	昭和51年4月 弘前市立電波工業高等学校入学(昭和54年3月卒業) 昭和54年 農業に専従 平成25年4月 農業委員 平成28年4月 推進委員 平成31年4月 農業委員	畑 2.3ha 桃 0.2ha 娘婿と農業専従	○	個人推薦	横沢 由久	57	男	農業		
											古川 智廣	52	男	農業		
											川越 光一	61	男	農業		
										名称						
										代表者・管理者氏名						
										目的	農業委員を6年、推進委員を3年の経験したことを活かし、地域のためにこれからも農業委員として頑張っていきたいと思います。					
										構成員数						
構成員たる資格																
法人・団体の性格を明らかにする事項																

弘前市農業委員の推薦及び応募状況 最終公表

※受付順に記載

R3.10.29時点

No.	推薦・応募する区域	推薦・応募					推薦をした者				推薦・応募理由及び委員としての抱負	農地利用最適化推進委員への推薦・応募					
			氏名	職業	年齢	性別	経歴	農業経営の状況(又は従事する事業等、その者と農業との関連)※農業者でない場合は、市の農業の現状について、自身の考えを記載	認定農業者	推薦区分			氏名	年齢	性別	職業	
17	船沢	応募	小嶋 勇成	農業	64	男	昭和31年11月 蒔苗の農家に生まれる 昭和50年3月 東奥義塾高等学校 卒業 昭和50年4月 (株)太陽神戸銀行入社 昭和55年10月 退社 昭和56年4月 農業に専従	田 1.1ha 青天の霹靂栽培 畑 0.1ha 自家用野菜 樹園地 0.6ha 有袋りんご6割 無袋りんご4割	○	個人推薦						農業委員としての経験を活かし、地域の農地を守っていきたい。	
										団体推薦	名称						
											代表者・管理者氏名						
											目的						
											構成員数						
											構成員たる資格						
											法人・団体の性格を明らかにする事項						
18	清水	推薦	石岡 千鶴子	会社役員	65	女	昭和31年 青森市生まれ 昭和55年 日本大学文理学部卒業・青森県土木指導所勤務 昭和56年 退職・結婚・就農 平成15年 弘前市議会選挙初当選 平成20年 りんご生産・販売会社(株)ダイヤモンドアップル設立 代表取締役 平成28年 弘前市農業委員 平成28年4月から3期	りんご生産及び加工品の販売 耕作面積:4.7ha 品種:ふじ(80%) 王林(10%) トキ、シナノスイート、紅玉、つがる(合計10%) 構成人数:10名(役員1名、従業員2名、季節雇用7名) 出荷先:ゴールド農園(85%)、JA(10%)、宅配(5%) ・栽培の特徴として手間のかからない「葉とらずりんご」中心に、食味に重点を置いた栽培を行っている。加工品としてはりんごジュースとして販売している。		個人推薦						平成27年に農業委員会法が改正され、「地域の農業者の公的代表者」として重要な役割を期待されることとなりました。 「農地利用の最適化」においては、遊休農地の発生防止・解消。新規就農新規参入の促進。「担い手の育成・確保と農業経営の合理化推進」においては、農業経営の法人化と経営継承、簿記帳や青色申告の推進、中でも家族経営協定の推進においては、同じ女性農業者の立場から大いに力を入れるべき項目だと思っています。 現在、農業従事者の約6割が女性であり、多様な経営体で我が国の農業を支えている現状を踏まえれば、家族経営協定を締結することによって、女性や高齢者の多様な人材の活躍の促進につながり、規模の大小や中山間地域といった条件にかかわらず、農業経営の底上げにつながるからです。 もともと農業委員会制度の根幹には地域自治の理念があり、地域のことは地域の農業者がよく分かっており、その中で調整することが望ましいと考えています。地域の課題は何か、解決方法はあるのか、具体的な提案と実行が必要です。農業委員、推進委員、機構、農協、農政部局等と協働し積極的に発言、提案していきます。	
											名称	中南地域ViCウーマンの会					
											代表者・管理者氏名	木村 瑞穂					
											目的	農村女性の社会的地位の向上と地域の活性化を推進するため、情報交換及び研修を通して自己研鑽を図ることを目的とする。					
											構成員数	49名					
											構成員たる資格	・農林漁業者で構成される組織活動において指導的役割を担っている。 ・合理的な経営を実践するなど地域農林水産業の振興や農山漁村生活の向上に意欲的な者 ・円満な人格と優れた生産・生活技術を有し農山漁村の若い担い手女性の育成に熱心な者					
											法人・団体の性格を明らかにする事項	定款					

弘前市農業委員の推薦及び応募状況 最終公表

※受付順に記載

R3.10.29時点

No.	推薦・応募する区域	推薦・応募					推薦をした者				推薦・応募理由及び委員としての抱負	農地利用最適化推進委員への推薦・応募					
			氏名	職業	年齢	性別	経歴	農業経営の状況(又は従事する事業等、その者と農業との関連)※農業者でない場合は、市の農業の現状について、自身の考えを記載	認定農業者	推薦区分			氏名	年齢	性別	職業	
19	岩木	推薦	福士 章逸	農業	69	男	昭和26年11月 弘前市五代の農家に生まれる 昭和42年4月 津軽高等学校に入学 昭和46年3月 卒業 昭和46年4月 村上肥料店に入社 昭和54年3月 退社 家業の農業を手伝う 平成4年4月 弘前市職員に採用 平成27年1月 認定農業者に認定 令和元年4月 農業推進委員	水稲 3.8ha疎植栽培(0.7ha作業請負) 樹園地 0.5ha 有袋4割 無袋6割 妻と雇用人(1人)で農業に従事 水稲は土壌検査して肥料の散布 りんごは9.5割JAに出荷、0.5割自家消費 耕地面積は4.3ha 米(つがるロマン) りんご(ふじ、ジョナゴールド、金星他)	○	個人推薦					私、福士章逸は農家に生まれ農家を幼い時から見てきてその仕事に憧れ昭和42年4月農業高校(4年制)である津軽高等学校に入学、農業の基礎を学びました。卒業後、村上肥料店に入社、肥料、農業等を学び退社後は家業の農業に従事しました。 令和元年から農地利用最適化推進委員の経験を活かし農地を探している人とマッチングし遊休農地、休耕農地を無くしたいと思っています。 福士氏は平成27年から当町会の会計を任せられ非常に信頼のある人だと思っています。また農地利用最適化推進委員の経験もあり有望な人物だと思っています。今回農業委員に推薦いたします。	○	
											団体推薦	名称	五代町会				
												代表者・管理者氏名	町会長 木村 均				
										目的		町会の自治発展と会員相互の親睦を図るとともに住みよい地域作りと住民の福祉向上に資する事					
										構成員数		246世帯					
										構成員たる資格	町会費の納入をもって構成員となる						
										法人・団体の性格を明らかにする事項	定款						
20	藤代	応募	岩谷 裕子	農業	67	女	昭和29年10月 鯉ヶ沢町公務員に生まれる 昭和45年4月 五所川原高等学校入学(昭和48年3月卒業) 昭和48年4月 (株)三三五貨物に入社(弘前支店事務) 昭和49年11月 (株)ラグノオさきき入店(本社経理) 昭和57年 中崎の農家嫁ぎ 就農 昭和61年 (株)ラグノオさきき 退社 平成28年4月 農業委員	田 12,000㎡ 樹園地 36,000㎡ 夫と農業に専従 息子夫婦も農業に従事 主にりんご作業を担当し、夫、息子の経営状況を把握 青色申告会高杉支部に属し、パソコンクラブ入会 年間の会計管理、決算、申告の担当、顧客管理		個人推薦					2期を終えることで、女性の農業者たちとの今後の話し合い等、女性目線で、今後の弘前の農業をますます繁栄させるよう努力したい。		
											団体推薦	名称					
												代表者・管理者氏名					
										目的							
										構成員数							
										構成員たる資格							
										法人・団体の性格を明らかにする事項							

弘前市農業委員の推薦及び応募状況 最終公表

※受付順に記載

R3.10.29時点

No.	推薦・応募する区域	推薦・応募					推薦をした者				推薦、応募理由及び委員としての抱負	農地利用最適化推進委員への推薦・応募			
			氏名	職業	年齢	性別	経歴	農業経営の状況(又は従事する事業等、その者と農業との関連)※農業者でない場合は、市の農業の現状について、自身の考えを記載	認定農業者	推薦区分			氏名	年齢	性別
21	岩木	推薦	木村 芳文	農業	69	男	昭和45年3月 弘前実業高等学校卒業 昭和46年4月 岩木町農協入組 昭和57年8月 岩木町農協退職 平成9年9月 岩木町農協監事就任 平成12年9月 岩木町農協理事就任 平成15年7月 つがる弘前農協理事就任 令和3年10月 同上(現在に至る)	水田 0.9ha(岩木地域営農組合)樹園地(りんご) 5.0ha(無袋9割、有袋1割) 農業経営の主幹であるりんご栽培については、改植による優良品種の導入や、無袋栽培による作業の省力化に取り組んでいます。	○	個人推薦					木村芳文氏は弘前実業高校卒業後、岩木町農協に職員として約11年間勤務した後、りんご・水稲経営農家として就農。その後、岩木町農協の非常勤役員(監事・理事)に就任、平成15年7月農協合併が行われ、現在の「つがる弘前農協」になってからも引き続き農家組合員のため尽力されこれまで通算25年の役員歴を持ちます。 また、平成22年から現在まで弘前市農業委員会委員も務めており、今後、さらに農業委員会委員の職務を適正に遂行できるものと確信していることから、木村芳文氏を推薦いたします。
									名称	つがる弘前農業協同組合					
									代表者・管理者氏名	代表理事組合長 工藤 文明					
									目的	地域の農業生産の振興を旨として、組合員の相互扶助の精神に基づき、協同して組合員の事業及び生活のために必要な事業を行い、もってその経済状況を改善し、かつ、社会的地位の向上を図ること					
									構成員数	正組合員 7,760人					
									構成員たる資格	農業者で定款に定める者					
									法人・団体の性格を明らかにする事項	定款					
22	和徳・豊田	応募	川村 陽彦	行政書士	53	男	昭和60年4月 函館ラ・サール高校入学(昭和63年卒業) 昭和63年4月 新潟大学法学部入学(平成4年卒業) 平成4年4月 農林水産省入省(平成10年退職) 平成10年4月 東京大学大学院修士課程入学(平成12年修了) 平成24年11月 行政書士川村法務事務所開業現在に至る	弘前市の4,792農業経営体のうち、4,045経営体が基幹作物であるりんごを生産しておりますが、農業従事者高齢化と担い手不足の減少により今後廃園となる農地が益々増加することが懸念されます。 それに対して新規参入者の更なる促進を図る必要があるものの従来型の家族経営では限界があると思われま す。 そこで、法人化を一層進め、また、優良農地を所有しているにもかかわらず従業員の不足等により農業経営の継続が困難な法人に対しては法人の合併等を含めた事業継承の推進の必要性が一層増すように思います。		個人推薦					現在、農業従事者の減少・高齢化が進行するなか、担い手育成が重要課題ではありますが、私が農林水産省に入省した1992年から既に重要課題とされておりました。その当時公表された「新しい食料・農業・農村政策の方向」(新政策)において、その対策の一つとして、当時主たる経営形態であった家族経営体から法人化を進め、また、農業経営の意欲と能力のあるものに土地を集約することによって効率的な農業経営を促進することが挙げられておりました。現在、経営主体の法人化は進んだものの未だ担い手不足が解消されていない状況にあり、平成27年に改正された農業委員会法においても農業委員会の役割として①担い手への農地利用の集積・集約化②遊休農地の発生防止・解消③新規参入の促進など「農地等の利用の最適化の推進」が農業委員会の役割が課されることとなったことから、私が農林水産省に入省する動機となった当該政策の実現に携わることができるのではないかと思い今回応募させていただきます。 また、権利関係の許認可業務に携わる行政書士としての経験を活かし、農地法をはじめ各種関連法令の適正・公平な運用のために尽くしたいと思っております。
									名称						
									代表者・管理者氏名						
									目的						
									構成員数						
									構成員たる資格						
									法人・団体の性格を明らかにする事項						

弘前市農業委員の推薦及び応募状況 最終公表

※受付順に記載

R3.10.29時点

No.	推薦・応募する区域	推薦・応募						推薦をした者					推薦・応募理由及び委員としての抱負	農地利用最適化推進委員への推薦・応募			
			氏名	職業	年齢	性別	経歴	農業経営の状況(又は従事する事業等、その者と農業との関連)※農業者でない場合は、市の農業の現状について、自身の考えを記載	認定農業者	推薦区分	氏名	年齢			性別	職業	
23	旧市・堀越	推薦	佐藤 修司	農業	65	男	昭和50年3月 弘前実業高等学校卒業後、家業の農業に就き、現在に至る。 平成22年5月 (農)ほりこしファーム創立より代表理事	個人で水稲15ha、減農薬米20a(内ハウス300坪)で野菜	○	個人推薦	奥元 勝義	73	男	農業	奥元委員より引き継ぎこれからの堀越地区の農地を守って行きたい。	○	
											新屋 肇	67	男	農業			
											小枝 貞文	64	男	農業			
										団体推薦	名称						
											代表者・管理者氏名						
											目的						
											構成員数						
構成員たる資格																	
法人・団体の性格を明らかにする事項																	
24	船沢	推薦	佐藤 剛郎	農業	75	男	昭和21年に生まれ、昭和40年東奥義塾高等学校卒業、平成15年「つがる弘前農業協同組合」理事、経済、金融販売委員長を歴任。 平成21年同JA「販売・経済担当常務」退任後、平成28年農業委員に選任され2期目。	りんご園 3ha 水田 2.1ha 桃 0.5haを家族4人で営農、又法人「かわにし」の役員 「認定農家」の資格は長男に変更 現在「桃」の栽培の推進しています。		個人推薦				規模拡大する農家として農業経営に取り組み、地域農業の発展に尽力し、農事組合にも協力しています。 又今後の農業経営に関する責任ある人材です。 農業委員会の責任ある職務を遂行する事と思われしますので、かわにし代表理事として再度佐藤剛郎さんを推薦致します。			
											団体推薦	名称	農事組合法人 かわにし				
												代表者・管理者氏名	代表理事 成田 昭敏				
										目的		地域の担い手組合が一致団結					
										構成員数		325名					
										構成員たる資格	農業者等で定款に定める者						
										法人・団体の性格を明らかにする事項	定款						

弘前市農業委員の推薦及び応募状況 最終公表

※受付順に記載

R3.10.29時点

No.	推薦・応募する区域	推薦・応募						推薦をした者					推薦・応募理由及び委員としての抱負	農地利用最適化推進委員への推薦・応募			
			氏名	職業	年齢	性別	経歴	農業経営の状況(又は従事する事業等、その者と農業との関連)※農業者でない場合は、市の農業の現状について、自身の考えを記載	認定農業者	推薦区分	氏名	年齢			性別	職業	
25	岩木	応募	藤田 善明	農業	41	男	昭和54年12月 兼平の農家に生まれる 平成7年4月 弘前実業高校 農業経営科入学 (平成10年卒業) 平成28年4月 農地利用最適化推進委員 (3年間) 平成31年4月 農業委員 (3年間)	田 1ha 畑 2.5ha 無袋りんご9割 有袋りんご1割 父、母と農業に専従 りんごは有袋を黄色りんごに切り替えて省力化	○	個人推薦					私は平成20年に就農し、13年間農業に従事してきました。平成28年から農地利用最適化推進委員を3年間と平成31年から農業委員を3年間活動してきました。その中で、高齢化や後継者不足による耕作放棄地の増加や耕作放棄地周辺の農地に及ぼす被害などの改善を目指して努力してきましたが、まだ出来る事は多くあり、これまでの経験を活かして、農業委員として活動していきたいと考え応募しました。		
											団体推薦	名称					
												代表者・管理者氏名					
										目的							
										構成員数							
										構成員たる資格							
										法人・団体の性格を明らかにする事項							
26	和徳・豊田	応募	小田桐 克也	農業	56	男	昭和56年4月 弘前実業高等学校入学 平成15年 農業に専従	田 12ha 畑 0.8ha 樹園地 1ha 無袋りんご8割と有袋2割 米は減農薬栽培・飼料米 りんごは葉取らずなどで省力化	○	個人推薦				農地の利用集積・集約化、そして耕作放棄地の発生防止等に取組みたい。			
											団体推薦	名称					
												代表者・管理者氏名					
										目的							
										構成員数							
										構成員たる資格							
										法人・団体の性格を明らかにする事項							

弘前市農業委員の推薦及び応募状況 最終公表

※受付順に記載

R3.10.29時点

No.	推薦・応募する区域	推薦・応募	氏名				職業	年齢	性別	経歴	農業経営の状況(又は従事する事業等、その者と農業との関連)※農業者でない場合は、市の農業の現状について、自身の考えを記載	認定農業者	推薦をした者					推薦・応募理由及び委員としての抱負	農地利用最適化推進委員への推薦・応募
			推薦区分	氏名	年齢	性別							職業						
27	和徳・豊田	応募	白戸 信昭	無職	78	男	昭和17年12月 光田寺村の農家に生まれる 昭和33年4月 弘前高等学校入学(昭和36年卒業) 昭和38年4月 中央大学商学部入学(昭和42年卒業) 昭和42年4月 青森銀行入行 平成10年3月 青森銀行定年退職 青森銀行県病出張所所長、青森銀行弘前副支店長、田園町長会長、福村小学校評議員、岩木川漁業協同組合理事、弘前高等学校36年卒業同窓会幹事	津軽圏、特に弘前市は一次産業である農業の生産額・収入額が他産業に及ぼす影響が大であり農業の維持発展なくしては、弘前市の経済発展は成り立たないと言っても過言でないと考えられる。農業従事者の高齢化が進み、農業の後継者が年々減っている現実、又後継者があつたにしても嫁に来てくれる人がいなくて独身の後継者が増えている。特にりんご農家にその傾向が強い。農業が一般の職業に比べて忙しく収穫時には休みもとれない。りんご農家の人でさえもりんご農家に嫁にやるなど言われている現状を打破しなければならぬ。ほどほどに生活できる職業として改善する必要がある。		個人推薦							私は定年退職後、釣り仲間の人から葉取りりんごもぎを手伝ってくれないかとりんごの収穫に携わって15年、無償の時もあれば賃金をもらってかれこれ過ごしてきました。又ひろさき農業総合支援協議会主催の初心者向けりんご研修会にも5年前から参加してどういう人が来ているのか興味があり、数人の人にお話ししたら将来りんご農家を目指して今りんご農家でりんごの作業をしているが基本を習得したいと参加している人、父親が高齢になり仕事が出来なくなったので娘の私が来たという人、サラリーマンで土日休日のみで休みの時だけでも農作業をやってみたいという人色々であった。りんご産業は奥が深く、1、2年で習得してりんご農家になれとは思わないがそれでもりんご農業をやりたいという人が若い人に出て来ていることは希望が持てるし、又その人の為にも土地の情報提供、農業を辞める人の土地の情報を収集して農用地の有効活用に資するために各関係者と一緒に活動したいと応募した。	○	
28	三世寺中崎大川前坂高杉独狐	応募	住吉 佑太	農業(りんご)	28	男	平成5年3月 弘前市三世寺の農家に生まれる 平成23年3月 弘前工業高等学校卒業 平成23年4月～平成28年12月 東京で電気工事会社に就業 平成29年4月 就農 令和2年7月 りんご産業基幹青年にて研修(2年間)	田 0.3ha 農業委員会で手続し、貸し出し 樹園地(りんご) 約1.0ha 無袋りんご4割、有袋りんご6割 市場とJAに出荷 収量の95%は、赤いりんご 先代の父が経営していた頃より品質が向上し収入アップに成功。 現在、新植でわい化樹を約150本ほど植え、収量アップと作業の効率アップを図っています。		個人推薦						私が経営している園地の一つが隣接する園地が放任園で、りんごと樹に甚大な被害を受けてきました。接する樹のりんごは売り物にならず、廃棄するしかできずとてもやるせない気持ちでした。また、樹自体も病気で枯死し抜根することになり、約25本程処分しました。他の作物と違い、苗木を植えてもすぐ収入に結びつくものではない作物なのに、その作物を作っている人が管理を放棄し、このような被害を周りに与えていることに大きく憤りを感じました。以上が私が今日応募した大きな理由であり、放任園や粗放園、遊休園を積極的に減らす、増やしたくないと思っています。	○		

弘前市農業委員の推薦及び応募状況 最終公表

※受付順に記載

R3.10.29時点

No.	推薦・応募する区域	推薦・応募						推薦をした者					推薦・応募理由及び委員としての抱負	農地利用最適化推進委員への推薦・応募		
			氏名	職業	年齢	性別	経歴	農業経営の状況(又は従事する事業等、その者と農業との関連)※農業者でない場合は、市の農業の現状について、自身の考えを記載	認定農業者	推薦区分	氏名	年齢			性別	職業
29	岩木 その他全域	応募	戸澤 幸彦	農業	46	男	昭和50年5月 兼平の農家に生まれる 平成12年 実家農家に就農 平成22年 家業引き継ぎ 平成29年 法人化合同会社戸澤農場	水田 26ha 内訳:20ha 乾田直播 1ha 移植栽培 5ha 小麦栽培 15年ほど前から関東をメインに主に白米を個人・レストランに販売する	○	個人推薦					私自身現在まで農業に携わってきました。その中でこの先を見据えると高齢化と少子化による農業離れと耕作放棄地の増加は避けて通ることのできない問題と考え、町内会や周辺住民はもてるんの事、広く意見を聞き入れ、農業委員としてで出来る活動はないかと応募しました。	
										団体推薦	名称					
											代表者・管理者氏名					
											目的					
											構成員数					
構成員たる資格																
法人・団体の性格を明らかにする事項																
30	岩木	応募	前田 優考	農業	60	男	弘前実業高等学校を卒業後、就農	りんご、ピーマン、にんにく	○	個人推薦				後継者不足等で益々離農する人が増えていくと思われる中、市の農業が停滞していかないよう何とかしたいという思いから。		
										団体推薦	名称					
											代表者・管理者氏名					
											目的					
											構成員数					
構成員たる資格																
法人・団体の性格を明らかにする事項																

弘前市農業委員の推薦及び応募状況 最終公表

※受付順に記載

R3.10.29時点

No.	推薦・応募する区域	推薦・応募					推薦をした者				推薦・応募理由及び委員としての抱負	農地利用最適化推進委員への推薦・応募					
			氏名	職業	年齢	性別	経歴	農業経営の状況(又は従事する事業等、その者と農業との関連)※農業者でない場合は、市の農業の現状について、自身の考えを記載	認定農業者	推薦区分			氏名	年齢	性別	職業	
31	岩木	応募	田村 真裕美	農業	60	女	昭和36年1月 旧岩木町の農家に生まれる 昭和52年4月 弘前実業高等学校入学(55年卒) 平成14年12月 グリーンツーリズムインストラクター認定 平成26年2月 家族経営協定の締結	田 6.0ha 自然栽培米 畑 0.5ha 販売野菜・自家用(自然栽培) 兼業農家で主に農業に専従 米と野菜を自然栽培で栽培し、体験農業、農家民泊も取り入れ、直売施設や直販で販売。 平成31年4月から自然栽培塾を開催し、主に女性目線で家庭菜園中心の学びを野菜中心に開催している。		個人推薦					私は平成3年から本格的に農業に従事し、30年間、育児、家事をしながら、自然栽培でお米と野菜を生産、販売して兼業農家として働いております。また、平成14年から体験農業を取り入れ、農家民泊取得や、弘前里山ツーリズムの理事、青森県ViCウーマンの会長としての経歴などから、農政に関わる事がありました。また、平成29年から弘前市人・農地プラン策定検討会議委員としても関わらせて頂き、耕作放棄地の増加は深刻な問題です。農業に従事する者として、一つでも多くの放棄地を解消したいという思いがあり、これまでの経験を活かして農業委員として活動させて頂きたいと思い、応募致しました。		
											団体推薦	名称					
												代表者・管理者氏名					
										目的							
										構成員数							
										構成員たる資格							
法人・団体の性格を明らかにする事項																	